

かなこれんNEWS VOL19号

発 行：(一社)神奈川県子ども会連合会
編集責任者：神子連広報部長 宮野 利美
発 行 日：令和5年2月1日
<http://www.kodomo-kai.or.jp/kanagawa/>

神子連（かなこれん）とは、神奈川県内の各市町村の子ども会の集まりの組織です。
市町村だけでできないような、野外活動や、集団活動、研修活動など様々なイベントを行っています。

◆ 令和4年度会長会・指導者研修会が開催されました

令和4年11月26日（土）スカウト会館にて令和4年度（一社）神奈川県子ども会連合会会長会・指導者研修会が開催されました。令和4年度上期の事業報告等と令和4年度全国子ども会連合会安全共済事業上期報告のあと、指導者研修会として県立青少年センターより川手隆生先生をお迎えして講演とワークショップを行いました。

子ども会の現状は、コロナ感染の影響による活動の自粛、会員数の減少等たくさんの課題を抱えています。その中で、今回の研修は【子ども会の生き残りをかけて、危機感を持って解決案を出し合う】がテーマです。

まずは、アイスブレイキングでリフレッシュ。その後4つのグループに分かれ各グループ毎に子ども会の課題を付箋に記入し模造紙に張りながら発表、分類してサインペンで囲いタイトルを付けます。次にどうすれば課題解決ができるか、分類した課題を解決するためのアイデアを書いて貼ります。そのアイデアを自分達の地域や組織で実行するためにはどんな覚悟が必要かを考え付箋に書いて貼ります。そして各グループ内で、各自が【課題⇒解決案⇒覚悟】について発表しました。最後に全体に向けて各グループより発表を行いました。発表で終わりではありません。今後、実行することが重要です。まずはできる事から実行しましょう！！



◆ 子ども会安全啓発指導者養成講習会が開催されました

令和4年10月22日（土）藤沢市商工会館にて、子ども会安全啓発指導者養成講習会（初級）が行われました。安全教育に関する講義のあと、参加者がA、B2つのグループに分かれ演習を行いました。演習では危険予知トレーニングシートを見ながら危険箇所を挙げ、事故が起こらないようにするにはどうす



れば良いかを話し合います。過去の研修で使用したことのあるシートであっても、演習するメンバーが違うと視点が変わり、危険な箇所がたくさん挙がって、その理由や対処方法についても様々な意見が出ました。



演習の後半ではファシリテーターも体験し、進行役の難しさを実感しながらも話し合いを効果的に進める方法について学びました。安全な子ども会活動への思いを新たにした有意義な一日となりました。

* * * * * 全国子ども会連合会・神奈川県子ども会連絡協議会表彰 * * * * *

■令和4年度 公益社団法人全国子ども会連合会表彰

<個人> 桃崎 和子（綾瀬市）

おめでとうございます

（敬称略）

■令和4年度 神奈川県子ども会連絡協議会永年功労者表彰

<個人> 石井 園子（小田原市）・藤村 絵津子（大和市）・川口 利永子（大和市）



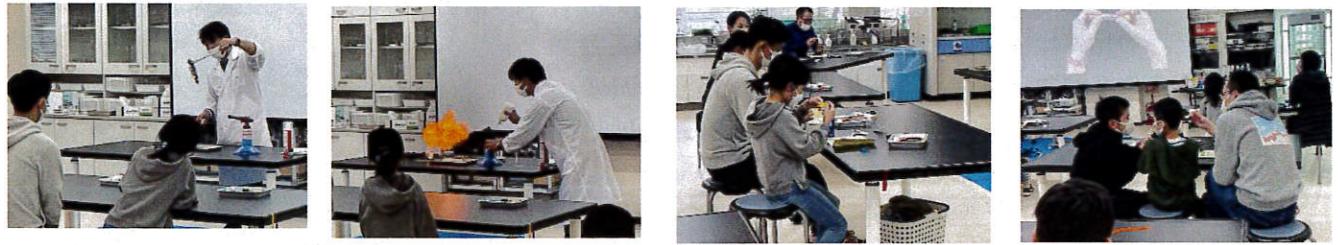
『遊び』を学ぼう！～指導者養成部会の活動より～



今年度の指導者養成部会では、1面で紹介したディスカッション形式の研修のほかに、神奈川県立青少年センターのご協力のもと、子ども会の基本にもどって、『遊び』を学ぼう！というテーマで2つの研修会を企画し開催しました。

◆楽しい科学ショーと工作体験　日時：11月5日(土) 場所：県立青少年センター科学部（厚木市）

神奈川県立青少年センター科学部の樋口部長、三宅先生を講師にお迎えして、科学の不思議にふれる研修会を開催しました。午前中は親子対象の科学実験ショーと科学工作、午後は指導者対象に科学の実験と工作の指導方法をご指導いただきました。子どもも大人も科学のふしぎを体験し、驚きと楽しさを感じた1日でした。



<参加者の声>

工作が大好きな小学3年生の娘と参加させて頂きました。3年生には科学は少し難しいかな、と思いましたが、同学年位のお子様の姿もあり一安心。この日のお題は「燃える」。早速実験が始まると子どもたちは先生の手元にぐっと引きつけられている様子。初めは緊張していた娘も少しずつ自分の考えを口にするようになっていました。実験ではわずかに白く立ち上る煙や湯気、焦げて香ばしく甘い匂いや、思っていた以上ポン！と大きな音を立てて飛びだすロケットにびっくりしながら、1時間の実験はあっという間に終了しました。

後半は楽しみにしていた工作体験。ベンハムのコマ、万華鏡、やじろべえを作りました。どれもシンプルながらその仕組みや不思議に大人の私も興味津々。終わってから思わず色々と調べてしまいました。やっぱり目の前で五感を使って体験するって楽しい！次は自分たちでも実験したいなと思いました。



◆レクリエーション講習会　日時：12月3日(土) 場所：湯河原町防災コミュニティセンター

遊びを学ぼう！をテーマにしたもう一つの研修は『コロナ禍でも子どもたちと楽しめるレクリエーションゲーム講習会』です。県立青少年センター指導者育成課の樋渡先生と長南先生にご指導いただきました。

屋外なら距離も取れるし換気も心配ないということで、コロナ禍になってのレクリエーションゲームは屋外に限定されていることが多くなっていました。しかしながら、屋外だと内容も限られてしまうし、雨の場合には中止になってしまいます。

室内ゲームは、比較的人から人へ何かを渡すとかふれあい（協力）ながら行うものが多く、コロナ禍では代替えするものの知識が不足していて、なかなか実施できないということがありました。でも、実施できるゲームの知識の幅を広げ、室内でも工夫をすれば子どもたちと安心して楽しむことができるということを学び、そのことを単位子ども会にも伝えられるようにしたい、そんな思いでこの研修会を企画しました。



参加者は市町子連や単位会の役員さん、ユースリーダー、ジュニアリーダーの総勢27名。1時間ほど講師の先生のご指導で室内レクリエーションの楽しさを自らが体験し、その後、少人数のグループに分かれ、グループごとに話し合いをしながら実際に指導体験をするところまでやってみました。

楽しむだけで終わるのではなく、楽しさを伝えて、指導できること、それが育成者一人一人の自信にもつながると考えました。

研修の始まる前と終わりでは、参加者の表情も変わり、子ども会活動への気持ちも活性化されたようでした。ぜひそれぞれの地元で活かし、子どもたちと一緒に楽しんでほしいと思います。



👉コロナ禍でもレクリエーションゲームを楽しむには

- 部屋の換気、マスクの着用、検温、手指消毒など基本的な対策をとる
- 適切な距離を取ることができるゲームを選ぶ
- 手をつないだり、物をやり取りしたりするゲームの際は軍手を使う



<ゲームの例>

あとだしじゃんけん

リーダーと参加者全員でじゃんけん。最初はあいこ編。リーダーが「じゃんけんポン」と言って、みんなに見えるように手を出す。参加者は、ワンテンポ遅れて「ポン」といいながら、リーダーと同じものを出す。はじめはゆっくりで、だんだん早く。次に参加者が勝つ編。ワンテンポ遅れてリーダーに勝つ手を出す。最後に参加者が負ける編。ワンテンポ遅れてリーダーに負ける手を出す。

キヤッチ

円になり、右手は人差し指を立てて下に向ける。左手は開いて、手のひらを上向きに。全員でその姿勢がとれたら、右手の人差し指は、右隣の人の手のひらに乗せる。リーダーのキヤッチの合図で、右手は逃げて、左手は捕まえる。

➤講習会を終えて～講師より一言～

この度は指導者研修会にお招きいただき、ありがとうございました。参加者のみなさまは、突然の「指導体験」に面食らったことでしょう。「失敗を恐れるな」とよく言うこと、言われることがあるかと思いますが、そのためには「失敗してもよい場」が必要だと考え、今回のような研修の内容になりました。大人が失敗を恐れず、例え間違ったとしても、それすらも笑いに変え、臨機応変に乗り越えていく姿こそ、言葉よりも深く子どもの心に刻まれるのではないかでしょうか。

レクリエーションの場面では、指導者として求められる知識や技術もありますが、何よりも大人が楽しむ心を持ち、子ども達に体験の場を届けることで、子ども達の笑顔が増えるといいなと願っています。（樋渡先生）

子ども同士の遊びを見ていると、いつの間にかルールが変わっているということがよくあります。工夫する中でおもしろさを見つけているのか、あるいは工夫することそのものが楽しいのでしょうか。

今回湯河原町で開催された「コロナ禍でもできるレクリエーションゲーム」では、やってみると正しくできない、進行が難しいという感想を持たれた方もいたと思います。でも、自分にできる方法で試してみる。まずは1回やってみる。これがとても楽しいことだということを、全ての大人が実は知っているはずです。今回参加されたみなさまは、ぜひ、地域の子どもたちと新しい方法にチャレンジを。そしてそのアレンジが、いつか地域の伝統になったりしたら最高です。（長南先生）



わたしたちの子ども会活動

横須賀市子ども会指導者協議会



横須賀市子ども会指導者協議会の令和4年度の活動より2つの事業をご紹介します

★ジュニアリーダーズ研修会

毎年4~7月に指導者の資質向上を目的に行っている指導者研修会。昨年から若手指導者の育成を目標に、ジュニアリーダーにも参加を依頼していますが、ジュニアリーダーをターゲットにした講習会の必要性を感じて、「ジュニアリーダー研修会」として年2回開催するようになりました。今回は11月20日(日)に開催した「簡単手品教室」の模様をお知らせします。

手品には、①手品の「タネ」を使うものと②練習で出来る手品があります。今回の研修では「タネ」を使う手品の見本演技と練習で出来る手品の研修を行いました。生活の中にあるものを使ってできる簡単手品として①輪ゴムの移動②結び目づくり（2種類）③ロープからリング抜け④切れた新聞紙が元通りに⑤カレンダーを使って数字を予言⑥カードを使って数字を当てる、の6種類を体験。何度も繰り返すうちに手順を覚え簡単にできるようになりました。また「切った新聞紙が元通り」のタネづくりにも挑戦しました。



ロープからリング抜け



カードを使って数字当て



★クリスマス会

横須賀市子ども会指導者協議会では、単位子ども会では取り組みにくい行事を年間4回計画していますが、クリスマス会もその一つです。今年度は12月18日(日)に横須賀市青少年会館ホールで開催しました。コロナ禍での開催でしたが、来場者の協力を得て、来場者カードに必要事項を記入して提出して頂くなど、感染予防対策をとって開催しました。

ジュニアリーダーズによるバルーンアートやマラカスづくりを行いましたが、プログラムが進むにつれて、子どもたちの動きも活発になり、ホール全体を使って作ったり、作ったものを使って遊んだりして楽しんでいました。吹奏楽演奏では作ったマラカスを手に、リズムを刻みながらクリスマスソングを楽しみました。

